

令和2年度 稲築東中学校 学校評価 報告書

令和3年3月8日

<b>【学校教育目標】</b>
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく生きる生徒の育成

<b>【本年度の重点目標】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の確実な定着を図る授業づくり</li> <li>・積極的な生徒指導の視点に立った教育活動</li> <li>・自尊感情及び規範意識の向上を図る道徳教育の推進</li> <li>・特別に支援を要する生徒への指導の充実</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣づくりと家庭学習の充実</li> <li>・人権教育等を通して豊かな心の育成</li> </ul>

4 大変よい    3 よい    2 努力を要す    1 すぐに改善

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
組織・運営	学校経営	<p>学校教育目標の具現化に向けて、教職員一人一人が経営方針を理解し、組織的・協働的・意欲的に学校経営に参画する。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.8P。学校経営に関する各評価項目が前年度に比べ向上してきた。学校文化として組織的・協働的・意欲的に「学校づくり」に参画する意識が職員間に定着し、相乗効果ができた。</p>	3.7	<p>・前年度に比べてかなり教職員の意識が高くなっている。本年度はコロナの影響で、学校行事ができなかったが、次年度はより行動することで、意識がさらに高くなって欲しい。</p>	<p>学校経営への参画意識に多少の格差が見られるものの、担当する係の任務内容に対して、具体的な方策の計画・実施を責任をもってやり遂げようとする姿が見られる。校務分掌部長を核とした組織的な方策の計画、実施、また新たなミドルリーダー(中核教員)の人材育成と、OJTによる教師力アップの取組が更に必要である。</p>
	校務分掌	<p>校務分掌組織の活性化を図るために、P-D-C-Aサイクルに基づいたマネジメントを推進し、定期的な評価と改善を行う。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.7P。重点目標の達成に向け、各種委員会の組織マネジメント機能を重視した取組を行った。また、学期末の校務分掌部会や係ごとの会議で、反省・評価・改善策の提示が定着し、マネジメントサイクルが定着してきた。</p>	3.8	<p>・PDCAサイクルは企業経営に導入されており、問題点からその対応策を考えることで、職員すべてのスキルアップが図られるためにも、今後も自分で考え、行動する教職員となって欲しい。</p>	<p>今年度は、各種委員会の機能的な活動を重視した取組を実施した。そのために、委員会のメンバーの専門性を高めるような資料を計画的に準備し、ミニ研修を委員会内で実施した。次年度はより組織マネジメント機能を充実させるために、年間計画に各種委員会及び校務分掌部長会等のカリマネ組織の実働、活動計画及び評価を位置づける。</p>
	情報発信	<p>学校の教育方針や生徒及び学校全体の活動を保護者や地域に知らせるとともに、協力体制の構築をはかる。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.7P。学級・学年通信・学校通信を定期的に発行し、生徒や学校の様子を保護者に知らせることができた。また、台風・大雪等の自然災害はもちろん、コロナ感染症に関する情報を「すぐメール」で定期的に知らせるなど、効果的な活用ができた。保護者すぐメール登録率100%</p>	3.8	<p>・ペーパーやデジタルを活用し、学校の情報が発信されていて、非常に良いと思う。今後は、教職員・PTA・地域住民との対話を行う単P単位での意見交流会も実施して欲しい。</p>	<p>学校通信やホームページの内容充実に努め、保護者や地域の方々に学校の様子をさらに分かりやすく知らせ、開かれた学校づくりに努める。今後もコロナ感染症予防対策や臨時休校中の学習教材の配信など、より積極的な情報発信を心掛ける。</p>
	学校評価	<p>学校評価を定期的実施することにより、改善と充実を図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.1P。生徒や保護者アンケートを実施し、自己評価に反映させている。年々保護者アンケートの回収率が上がってきた。また、保護者からの学校への評価も上昇している。</p>	3.3	<p>・学校とPTAとの協力により子供たちのために何が必要で、いつ導入するかなど、迅速に対応できた。今後もより強固な協力体制を構築したい。</p>	<p>学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や学習参観を積極的に参加を呼びかけ、多くの地域・保護者から生徒の活動の姿を見て評価をしていただく。 特に、PTA会費をコロナ感染予防のためのマスクの配布や学級に1台の加湿空気清浄機購入にあてたことな</p>
総合所見	<p>教職員一人一人の経営参画の意識の向上がみられる。運営委員会をはじめ、各種委員会におけるミニ研修など職員の力量向上を目指したOJTの結果があらわれてきた。今後も、学校の中核となるミドルリーダーや若手教員の人材育成を意図した組織づくりを通して、学校教育目標の具現化に向けた協働体制を整えていく。また、教育課程のカリキュラムマネジメントを通して、教育活動の一貫性や関連化を図るようにする。職員一人一人が、自分の係の取組が学校の重点課題の解決につながるという意識を持ち、プラスワンの工夫を加えるようにする。また、校務分掌や学校評価において全職員の共通理解のもと、P-D-C-Aサイクルを生かし、教育目標の具現化、重点目標の達成を目指す。</p>		<p>・今後もPDCAサイクルを用いて分析を行い、稲築東中学校の強み弱みの課題を研究し、学校関係者も含めて解決策を見つけていけばよいと思う。</p>	<p>・人材育成構想をもとに、キャリアに応じた資質・能力の向上を図るとともに、ミドルリーダーの育成が急務である。意図的なOJTによる若手教員の資質向上を図る。 ・全職員の共通理解のもと、CAP-Dにより校務分掌組織の機能化を図り、教育目標の具現化をさらに進める。</p>	

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
教育課程・学習指導	授業時数	<p>教育課程の完全実施のため、授業時数を確保する。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.3P。本年度は、年度当初、コロナ感染症による緊急事態宣言のため、臨時休校の期間があった。そのため、授業内容の確実な履修を目指し、7時間授業を実施するなど、授業時数の確保に努めた。</p>	3.8	<p>・子供たちに不利にならないように対応していただいている。ただし、子供の心のケアをより十分に対応し、精神的に負担にならないか考慮して欲しい。</p>	<p>今後も、コロナ感染症の感染状況によっては、臨時休校措置がある可能性がある。そのため、確かな学力を適切に身に付けさせるためにも、授業時数の確保、配分をおこない、教育課程の量的・質的管理の徹底を図っていく。また、教科・領域について、カリキュラムマネジメントによる実施、評価を計画的に実施する。</p>
	学力向上	<p>生徒の実態に基づいた学習指導体制や授業改善に努め、学力向上プランに基づいた指導方法の工夫・改善を行う。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.6P。意欲的・主体的に学習する「わかる授業」の工夫・改善については、肯定的回答は生徒、保護者、教師のアンケートともに高いものの、学力テスト等の結果には結びついていない。</p>	3.7	<p>・学力については、他校と比べ、あまり良いとはいけない状況にある。今後も指導を継続してほしい。</p>	<p>年2回実施の生徒による授業アンケートを活用した授業改善の校内研修を計画的に実施する。全国学力・学習状況調査やフクトテストの結果分析を学力向上委員会を中心に全職員で共有し、学力向上プランをもとにした検証改善サイクルを実働させる。また、家庭学習の定着を図るため自学ノートを鍛ほめ福岡メソッドの取組として展開していく。</p>
	少人数指導	<p>少人数指導や個に応じた指導を行い、基礎・基本の学習内容の定着を図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.3P。英語科及び数学科は、TT授業、習熟に応じた分割授業、個別指導などをおこなった。特に、3年生では、少人数習熟度別指導により学習意欲が高まり、きめ細かな指導ができた。</p>	3.6	<p>・満足した指導を行っていただいていると思う。ただし、実力がついていないと思うので、学校・家庭の双方の努力がまだ必要であると思う。</p>	<p>少人数指導や個に応じた指導法の工夫改善や有効的な実践を検証し、学力向上、基礎基本の定着の方策を実行する。また、具体的な到達目標を明確にし、繰り返し指導を徹底することで、確実な基礎・基本の定着を図るとともに、思考力を問う問題に適應する力を付ける。</p>
	情報機器の活用	<p>情報機器(パソコン・電子黒板等)を活用した授業実践を工夫する。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.4P。教師のアンケート結果では、教科や学級・学年活動で情報機器を活用した授業実践の項目が、昨年度の80%から65%と減少した。</p>	3.2	<p>・情報機器の活用は教職員のその技術習得の差が出やすい。その点の技術習得のための研修を実施して欲しい。</p>	<p>ベッパ―君導入後、その活用が問題だったが、朝の挨拶運動などでその活用の場を設けている。今後も効果的な活用方法を探っていききたい。また、GTを招聘したICT活用の研修を実施、教科、領域で情報機器の更なる活用を目指す。</p>
	総合所見	<p>授業改善に取り組みと同時に、生徒のつまづきを見つけるための小テストを計画的に授業の中で設定する。さらにその定着を図るための定期考査とは別に「単元テストの実施」と各教科で調整を図り、計画的に「家庭学習の課題」を出すようにする。また、校内研修を通じた授業改善の結果を見とる学力テストや生徒による授業アンケートを丁寧に分析し、更なる授業改善につなげるようにする。定期考査の問題の質を上げるための研修をするなど、指導と評価の一体化を目指し、より具体的な指導力量の向上を図るようにする。</p> <p>さらには、生徒の学力向上に繋がる取組を行う必要がある。そのために、本校の鍛ほめ福岡メソッドの取組である自学ノートを活用した生徒の意欲を高め、達成感を持たせるように学力向上の下支えとなる取組を進める。それにより、1年90分 2年100分 3年120分以上の家庭学習時間の確保80%以上を目指す。</p>		<p>・今後も子供の学力向上の取組を継続充実して欲しい。</p>	<p>・学校の重点目標を達成するために、学力向上委員会を中心とした各種委員会が連携していく。そのために年間計画を立案し、着実に実施する。また、学力向上プランの検証改善サイクルのロードマップをもとにし、DOの重点化を図る。</p> <p>・定期考査等における思考力を問う問題の質の向上のための校内研修を実施する。</p> <p>・鍛ほめの方途を取り入れ、生徒の実態に応じた自学ノートの取組の推進を図る。</p>

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
積極的 生徒指導	規範意識	<p><b>規範意識の醸成に向けて、規律や秩序を大切に、よりよい人間関係づくりをめざした積極的生徒指導を行う。</b></p> <p>〈結果〉 自己評価+0.3P。アンケートでは、95%の生徒が学校の規則を守っていると答えている。保護者も93%が肯定的である。また、生徒指導についての共通理解や積極的生徒指導の推進について教師の100%が肯定的である。</p>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等、様々な情報機器を子供たちが利用しており、その使用についてはPTAも研修を深めなければならなし。学校と家庭が協力して、ルールを守らせる環境づくりを進めていかなければならない。学校には今後も指導の強化をお願いしたい。</li> </ul>	<p>昨年度から、入学説明会において、SNSに関する注意喚起を行政とともにやっている。SNSに関する生徒間トラブルが減少した。今後も学校規則に関する家庭への周知を図るとともに、学校・保護者間での相互理解を図ったうえで、積極的な生徒指導に取り組む。特に、携帯電話やスマートフォンに係る家庭のルールづくりの課題に取り組む必要がある。また、生活ノートで自律的な生活習慣の意識付け、習慣化を行っていく。</p>
	いじめ対策	<p><b>いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努める。</b></p> <p>〈結果〉 自己評価+0.2。本年度のいじめ認知件数は3件(冷やかし・からかい2件、金品をたかられる1件)。生徒本人からの訴えや保護者からの相談による認知で主である。早期に発見し、対応できたため、重大事案にはならなかった。</p>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、対処により問題が大きくならず済んでいると思う。今後も学校と家庭との問題共有を進めてほしい。</li> </ul>	<p>本年度も生活アンケート(毎月)やいじめに特化したしたアンケート(学期に1回)を実施するとともに、日常的にいじめや問題行動防止に向けた取り組みを行っている。また、積極的にいじめを認知し、継続的に対象生徒を観察していくようにしている。今後も、アンテナを高くし、いじめは誰にでも、どこにでも起こりうるという認識に立ち、早期発見・早期対応に取り組んでいく。</p>
	関係作り	<p><b>教育活動全般を通して、生徒間や生徒・教師間の人間関係づくりを図る。</b></p> <p>〈結果〉 自己評価+0.3社会的能力(コミュニケーションスキル等)を身につけさせるSEL-8Sの取組や学校行事を通して、生徒同士の関わりや理解を深めることに努めている。</p>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナによる休校や学校行事の減少により、コミュニケーションスキルは確実に身につく機会が減っている。生徒の話を聞く時間の確保を望む。</li> </ul>	<p>いじめや差別に繋がる日頃の言葉遣いに注意が必要である。生徒同士の些細なトラブルを自分たちで解決できる力や日頃からの関係づくりを意図的に行う必要がある。担任は生活ノートによる生徒とのやり取りをきめ細かに行うなど、生徒の様子に気を配り、信頼関係づくりをしている。今後は生徒同士の信頼関係づくりを積極的にやっていく。</p>
	生活習慣	<p><b>基本的な生活習慣の確立と生活態度の向上に努める。</b></p> <p>〈結果〉 自己評価+0.1P。不登校傾向の生徒については、平成27年度より8人→4人→5人→6人→8人→7人(本年度)となり1名減少した。不登校となった生徒で、ケース会議や関係機関との連携により復帰した生徒もいる。遅刻や欠席及び不登校生徒の状況等の確認も担任・副任や不登校対策委員会が協力して行い、家庭と連携しての取り組みに努め、未然防止策を講じるようにしている。学級復帰のための適応指導教室(別室)を校内に設置した。(現在4名)</p>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭の方針もあり、指導が難しいと思う。しかし、周囲を巻き込んだ地域全体の問題として協議・指導ができればよいと思う。保護者理解のため、PTAとしても協力文書を出したい。</li> </ul>	<p>不登校及び不登校傾向の生徒には、プロジェクトチームでの対応を継続し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を深め、生徒だけでなく家庭への指導・助言等を行っていく。今後も個に応じたケース会議を開くなど、関係機関との連携を更に深めながら、厳しい家庭環境にある生徒の生活習慣の確立や保護者の協力に向け、家庭との連携をさらに密にする。さらに、学級内の絆づくり、居場所づくりを意図的に設定していく。</p>
	教育相談	<p><b>心身の健全な育成をはかるための定期的教育相談を行い、内容の充実を図る。</b></p> <p>〈結果〉 自己評価+0.1P。「定期的な教育相談の実施」については教師の肯定的な回答が大きく上昇した。担任による随時の教育相談を行いながら、生徒理解を深め、内容の充実にも努めてきた。定期的な教育相談以外にも、時を選ばず話す機会を持つなど、積極的に生徒理解に努める様子がある。</p>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しい中での教育相談を行うことが大変だろうが、今後も生徒理解のために継続して行って欲しい。また、教師への研修を市PTA連合会でも対応してもよいのではと思う。</li> </ul>	<p>年間を見通した定期的な教育相談の時期(週間)や内容・持ち方などを検討するとともに、日常的な生徒への声かけや気配りに努める。来年度もSCによる校内研修を年計画的に実施し、生徒理解・生徒指導に関する研修を深めていく。</p>
	総合所見	<p>これまでのきめ細やかな日常的な取組、行事等を活かした積極的な生徒指導、SEL-8Sや道徳の授業の相乗効果で、この数年、生徒は落ち着いた学校生活を送っており、基本的な生活習慣や規範意識が定着してきた。生徒・保護者の学校(教師)に対する信頼関係も年々構築されてきている。この学校の落ち着きと保護者や地域からの信頼をさらに継続し、充実した教育活動の展開につなぐためにも、積極的な生徒指導に取り組んでいく必要がある。そのために、生徒自身が自分の生活を計画、実行、反省し、それを明日に活かすと行った自律的な生活習慣を身に付けさせたい。また、様々な背景を有する生徒がおり、より深い生徒理解や生徒指導に関する教師の研修も必要となっている。課題を抱えている生徒の家庭へ指導・助言を組織的に取り組む必要がある。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境は良いと考える。教師間、PTA間、生徒間および学校・PTA・生徒の信頼も良好だと考える。今後はさらに課題を深く検討し、対応できる環境を構築して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的生徒指導のさらなる推進を図り、不登校生徒を減少させ、学力保証を確実なものとする。</li> <li>・新規の不登校をつらないよう、積極的な生徒指導の視点を取り入れた授業づくり、教育活動をおこなうとともに、保護者のアクション3をもとにした家庭との連携を強化する。</li> </ul>

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
教職員の資質の向上	主題研修	<p>学力向上を目指し、組織的・計画的に主題研究を推進する。</p> <p>〈結果〉 自己評価-0.1P。昨年度まで取り組んできた道徳教育から、本年度から教科の授業研修に変更し、授業改善に取り組んだ。教員がそれぞれの授業において、書く活動ポイント9を活用した授業実践に取り組んだ。新学習指導要領の趣旨に沿った授業展開ができるよう、指導技術の向上に努めるようにする。</p>	3.3	<p>・高職員の資質能力の向上のため、他校の実践を参考にしたり、しない学校の意見を交流したり、より多くの意見を取り入れて研修を行って欲しい。</p>	<p>学習指導要領の趣旨に沿った授業改善への道筋を明らかにする必要がある。今後も、具体的な実践をもとにした校内研修を計画的に実施し、指導力量を高めるようにする。</p>
	一般研修	<p>教職員の指導力向上のための研修を計画的・組織的に取り組む。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.4P。今年度も外部講師を招聘しての研修会だけでなく、教務部や生徒指導部・生徒支援部・研修部による独自の研修会も持つことができた。</p>	3.6	<p>・子どもを預けている立場として、先生方の指導力は気になる。勉強だけでなく、人を育てる能力の向上には時間をかけ、しっかり研修して欲しい。</p> <p>・校務分掌の各部が主体となって、稲築東中学校にとって必要な研修が行われていることは、大変素晴らしいことです。</p> <p>・昨今の教育現場を取り巻く情勢や状況が厳しくなっていますが、頑張っていて欲しいと思います。</p>	<p>教職員の年齢構成が壺型になっており、次世代を担う人材育成は喫緊の課題である。特に新たなミドルリーダーの育成を図るためにも、同僚性によるOJTを推進する体制づくりを行う。</p>
	服務	<p>教職員の服務規律の確保に努める。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.5P。教育公務員として、日常的に服務規律を意識し行動するよう努めた。情報管理についても、十分に注意している。危機管理マニュアルに基づき、職員の共通理解を図った。</p>	3.8	<p>・ニュース等で話題になっており、今後も服務に関する指導は強く行って欲しい。問題が起きた場合の影響を考え、行動を行うことが重要であると考えます。</p>	<p>教職員の服務規律・法令遵守に関する研修・管理職からの指導を日常的に行い、不祥事防止に努めた。今後も、危機管理意識を維持するため、危機管理マニュアルをもとにした校内研修会を計画的に実施する。</p>
	総合所見	<p>本校の年齢構成が若く、中堅層が少ない職員構成となっている。これまで学校を支えてきたミドルリーダー(中核教員)の異動も避けられない。従って、授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上、新たなミドルリーダーの育成が必須である。人材育成のためには、仕事を任せただでの指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校外での各種研修への受講・参加を校務分掌やライフステージに応じて奨励し、環流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげなければならない。</p>		<p>・学校内の教職員指導には限界があり、教育委員会等のつながりの中で、研修などの指導を行って欲しい。指導的立場の人が空席にならないように配慮して欲しい。</p>	<p>・各種委員会におけるOJTによる人材育成をおこない、次世代のリーダーを積極的に生み出していく。</p> <p>・そのための校内研修を工夫し、自主的な研修を計画的に実施する。</p> <p>・授業改善、家庭学習や朝活の充実による学力向上を実施、PDCAサイクルを日常的に行う。</p>